

## 熊本県立八代中学校 平成30年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「平成30年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.</li> <li>・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.</li> <li>・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.</li> </ul> <p>を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>ア グローバル人材育成プログラムの推進と精選（知の触発プログラム・アクションプログラム等）</p> <p>イ 学力の三要素を踏まえた指導方法の実践と検証（主体的・対話的で深い学び・ICT機器の活用）</p> <p>ウ 学校の魅力発信の推進と精選</p> <p>エ 中高一貫6ヶ年グランドデザインの完成</p>
---

3 自己評価総括表		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの基礎力養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定科目「対話力」を効果的に実施する。</li> <li>○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ150名以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NIE、ディベート、M E S E、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。</li> <li>・活動の最新の様子について、HPで常に公開する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から対話力の時間に新たに語彙・読解力検定の学習時間を設けた。English Campには中3から40名が参加した。各種ボランティア活動に109名の参加があった。目標には届かなかったが、昨年より3名増加した。</li> </ul>
	発信力の強化	◇中高一貫グランドデザイン再設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>○より質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。</li> <li>○各教科が6年間に渡る教科指導の流れを示したグランドデザインを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校との接続という観点から各教科の指導内容を見直し、内容を精選する。</li> <li>・学習指導委員会等で各教科のグランドデザインを検討し、完成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英数の展開授業では生徒の学習到達度によってクラス分けを実施した。対話力やステップアップセミナーでは高校と連携し、接続を意識した授業を行った。具体的なグランドデザインを示すまでには至っていない。</li> </ul>
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。</li> <li>・生徒による授業評価を年2回実施する。</li> <li>・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価で「授業でアクティブラーニングが行われている」の項目に肯定的回答した生徒の割合は92.9%で昨年より4ポイント上昇した。</li> <li>・「学力を伸ばす工夫を行っている」の項目は昨年より2.8ポイント上昇し96.0%だったが、まだ授業改善の余地は職員のアンケート結果からみると考えられる。</li> </ul>
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年ごとの目標学習時間を設定し、80%以上の生徒が目標を達成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの活用や適切な課題の配付を行い、学習習慣の確立に向けた指導を行う。</li> <li>・年3回、期末考査前に宅習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習→授業→復習の学習サイクルは大半の生徒が確立しているが、家庭学習目標時間の確保ができていない1学年のみであった。与えられた課題だけでなく、自発的学習に取り組ませる手立てを検討する必要がある。</li> </ul>

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
キャリア教育 (進路指導)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供する。	B	・高校進路部と連携し、随時進路情報交換を行った。 ・学力検討会を2回実施し、生徒の実態や教科の分析、成果と課題、今後の手立てを議論し、指導方針の共通化を図った。 ・グランドデザインの作成途中であり、完成に向けた作業の継続が必要である。
	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	B	・高校進路部と連携し、東大訪問や東大合格者講話、大学教授招聘事業、八高ガイダンス等を実施し、志を高く持ち努力する生徒の育成を図った。 ・グローバル改革推進部と連携し、電子データによるポートフォリオ作成のためにClassiを積極的に活用する必要がある。
生徒指導	問題行動の未然防止	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○校則、心得100%遵守を目指す。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・校内での生徒情報の共有を図るとともに保護者との情報交換を密に行う。また、情報機器の使用を指導する。	B	・問題行動、校則・心得違反、交通事故などが発生しているが、保護者と密な情報交換をしながら、全職員で連携し細やかに対応できている。
	自治的活動の推進	◇自治活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○年間計画に沿った月、週ごとの目標を立て、達成率100%を目指す。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・ボランティア活動を積極的に推進する。	B	・適切な目標を設定しながら、各部署で自主的・自発的な活動を行うことができた。自治会活動の計画的な実施に心がけ、各部署で取り組みを活性化することができた。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し人権教育を推進する。	・年1回、各学年単位で人権部落問題学習を実施する。 ・年2回、校内人権集会を実施する。 ・地域主催の人権集会や各種研修会に1人1回以上参加する。	B	・各学年で部落問題やハンセン病問題、水俣病問題、男女共同参画社会について学習を深め、中高連携で実施した校内人権集会で部落差別の現状について学習を深めた。 ・職員が集会所でフィールドワークを行い、地区の部落問題の認識を深めた。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障害の有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実に取り組む。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立てて、支援する。	A	・週1回、生徒の状況について中学部で報告し合って共通認識を持ち、生徒理解に努めた。 ・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を作成し、個に応じた支援体制の充実を図った。 ・生徒理解の職員研修を2回開催し、生徒一人一人の把握につとめた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動において人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を意識した学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・道徳の授業をはじめ、各教科領域等で人権問題を取り上げ、命を大切にすることを育む指導を行った。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇いじめを未然に防ぐための予防的取組</li> <li>◇いじめの早期発見と早期対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。</li> <li>○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回アンケートを実施し、いじめの防止・早期発見に努める。</li> <li>・学期に1回いじめ防止対策会議を開き、実態把握と早期発見・対応を行い、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談週間の相談内容や学期に1回行う心のアンケートをもとに、聞き取りや対応を早期に行い、その経過について、いじめ防止対策委員会で話し合い、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策につとめた。</li> <li>・教育相談や生徒理解の職員研修を年2回実施し、生徒の情報を共有し、支援体制を構築した。</li> </ul>
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域とともにある学校づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の安全、安心を第一に考え、防災避難訓練を年に3回以上実施する。</li> <li>○熊本地震を踏まえた避難所運営マニュアルの作成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難経路の確認を行い、消防署指導の防災避難訓練を実施する。2学期以降、地震を想定した防災避難訓練及び引き渡し訓練を実施する。</li> <li>・防災型コミュニティスクール運営協議会等の指導・助言を受けて、災害時における本校の役割等を検討する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署指導による地震や火災発生時を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練を実施することができた。また、津波を想定した校舎への避難も3月に実施予定である。</li> <li>・災害発生時における学校施設の避難所等利用に関する基本協定書締結に基づき、避難所運営マニュアル八代高校・八代中学校版を作成した。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

・課題として、生徒の宅習時間の不足が挙がっていたが、原因の究明を具体的にを行うことが必要なのではないか。  
 ・成績上位者に関しては難関大合格者など成果は上がっていると思われるが、中堅以下の生徒の伸びの不足も課題として考えないといけない。  
 ・スマートフォンの使用については、使用を制限できる保護者が少ないのではないか。  
 ・本校生は与えられたものをきちんとこなしていく姿勢は持っているので、学校の方でやるべきものをしっかりと与えてもらい、家庭でもチェックできればと思う。

#### 5 総合評価

・今年度の評価はAが2、Cが1、残りがBで、昨年度からAが2項目減ったものの、Cも1つ減少し、全体的には問題点の改善が図られた。C評価の項目は昨年と同じ「生徒の自発的な学習の促進」であった。  
 ・学校評価アンケートでは、生徒、保護者ともにほとんどの項目が90%以上肯定的な評価が得られた。学校全体の総合評価についても、生徒の96%、保護者の98%が肯定的な評価であった。  
 ・各部の取り組みは、概ね計画通りに実施することが出来ている。

#### 6 次年度への課題・改善方策

・常に課題として上がる生徒の学習時間については、今後も各教科・各学年で指導の工夫・改善を加えることに取り組んで行かなければならない。  
 ・学校関係者評価において、上位者に関しては難関大合格者など成果は上がっているが、中堅以下の生徒の伸びの不足を課題として考えないといけないという指摘があり、中高連携を一層強化し、他校の先進事例等を研究しながら、効果的な取組を進めていく必要がある。  
 ・新学習指導要領を見据えた6カ年のグランドデザインの構築は、各学年・教科・部・中学校との連携と協働が必要な作業であるため、次年度は早めに取り組み完成させる。